

実験映画の歴史を塗り変えた世紀の映像作家が描く幻視の物語。

怪談のような、実験映画。

伊藤高志

劇映画特集

2026年10月16日(金) ~ 18日(日)
広島市映像文化ライブラリー

二人の女の反遭遇を通して描かれる／語られるのは、
シネマとイメージの、「映画」と「写真」の、終わりなき闘争である。
ゴダールと松本俊夫の唯一正統な後継者の最新作にして最前線。
とにかく全カット凄い。必見! (『遠い声』)

——佐々木敦(批評家)

怪談のような、実験映画。

実験映画の歴史を塗り変えた世紀の映像作家が描く幻視の物語。

2000年代以降、視覚的な幻惑や日常の変容など、それまでに手掛けた実験映像作品のテーマやコンセプトを発展させながら、フィクションの実験に没頭してきた伊藤高志の初の劇映画特集。「映画における虚構とは? 語りとは?」それらは同時に映画の構造を主題にしたアート作品でもある。海外でも評価の高い最新作『遠い声』をはじめ、初の長編作品『零へ』の他、全4作品を上映し、伊藤高志が生み出す幻想と幻視の物語世界にフォーカスする。



『遠い声』(最新作)

2024年／53分／デジタル／カラー

出演：郡谷奈穂、池末朱莉 音響：稲垣貴士、伊藤高志

協力：北本楓斗、檜崎由依子、大日方欣一、久保瑞季、

山本幸、中原千代子、黒岩俊哉、林ケイタ、島原大輔

この作品は二人の女性が登場する。分身のような二人はそれぞれが同じチェキカメラを持ち歩き、一人は異様な気配にレンズを向け、一人は黒のワンピースを様々な場所に吊るして撮影している。二人はその彷徨いの中でお互いの存在を探し求めているようにも見えるが声は届くことがない。日常的な時間・空間を超越して二人の行動を描くこと、見つめ合うという強い視線の交差はあるものの二人は決して触れ合うことができないという空虚感を描くことでこの世界の不確実性を描きたいと思った。最近の戦争や環境問題、AIに想像される狂気性といった、恐ろしい気配に満ちた時代になってきたという底知れぬ不安を背景に、現実と虚構の境目が不明瞭になってきた時代を私なりに表象してみた。



伊藤高志

1956年福岡生まれ。大学在学中、松本俊夫ゼミで発表した実験映画『SPACY』(81)が国内外の映画祭で絶賛される。超現実的な視覚世界や人間に潜在する狂気や不条理を追求。近年は劇映画の制作に加え、身体表現とのコラボレーションやインスタレーション作品など表現の幅を広げている。



『零へ』 イメージフォーラム・フェスティバル2021寺山修司賞受賞

2021年／72分／デジタル／カラー

出演：原田伸雄、高橋瑞乃、天津孔雀、松田美和子、久保瑞季、笹原侑里

音響：荒木優光、伊藤高志

映像はスクリーン上に強い存在感を描き出すと共に、それは単なる虚像さという不在感を思い知らす残酷なメディアである。映像が持つこの両義性こそには私は強く興味を抱く。今回の作品は「死」をテーマに映画を撮ろうとする女子大生、「死体」を捨てるために放浪する中年の女、「死の影」に怯える老人という死にまつわる3つの物語と、それらに出演したキャストのインタビューを交えた作品だが、虚実、生死、存在といった境界が溶解することで現れる不穏を強く描くことで、私たちが生きている世界は不確実性に満ちていることを暗示させたいと思った。



『最後の天使』

2014年／33分／デジタル／カラー

出演：村上瑠子、上川周作、大谷悠、松尾恵美、早川聡

音響：荒木優光 撮影協力：竹内彩夏、坂口和

人が人と出会い関係を生み出していくという劇映画の常識的な話法を踏襲しながら、1つの物語として収束していくのではなく、拡散し、混沌としたイメージの海へ放り投げ出されるような映画をめざした。2組のカップルの不穏な関係。彼女は私の妄想なのか、それとも私の方が彼女の妄想なのか、その境界は曖昧になり、存在に対する不安が次第に高まっていく。



『甘い生活』

2010年／23分／デジタル／カラー

出演：寺田みさこ、原田衣織、吉田良子

音響：荒木優光 撮影協力：豊永文恵、川村圭、野田真理子、村上唯

死に場所を探しているのか? ただひたすら街をさまよい歩く喪服を着た女の物語と、破壊的な行為に明け暮れる少女の物語が交錯し溶け合い混沌としていく様を描く。少女は女の悪夢なのか? または女の方が少女の妄想なのか? 夢と現実の境界、内面と外部世界の境界、生と死の境界、光と闇の境界、そんな境界と呼ばれるものが喪失することで生まれる不安定で希薄な存在感を描きたいと思った。

10/16◎	14:30～ B『零へ』◎	18:30～ A『SPACY』+『遠い声』◆
10/17⊕	11:00～ C『甘い生活』+『最後の天使』◎	14:30～ A『SPACY』+『遠い声』◆
10/18⊗	11:00～ D短編集◎	14:30～ A『SPACY』+『遠い声』★

【トークイベント】

◎の回：上映前に伊藤高志によるイントロダクションあり

◆の回：上映後トーク：伊藤高志

★の回：上映後トーク：松岡剛(広島市現代美術館 主幹学芸員)、伊藤高志

主催・会場：広島市映像文化ライブラリー／作品協力：ダゲレオ出版



【上映プログラム】

Aプロ(63分)：『SPACY』+『遠い声』

Bプロ(72分)：『零へ』

Cプロ(56分)：『甘い生活』+『最後の天使』

Dプロ(70分)：短編集(『BOX』『THUNDER』『DRILL』『GHOST』『ZONE』『モノクローム・ヘッド』『静かな一日・完全版』『めまい』)

広島市映像文化ライブラリー

Hiroshima City Cinematographic and Audio-Visual Library

広島市南区松原町9-1 エールエールHIROSHIMA10階

TEL:082-298-0551 <https://hiroshima-eizoubunka.jp/>

【鑑賞料】 大人：380円 シニア(65歳以上)・高校生：180円
小中学生：無料 (※土曜は高校生無料)